本を選ぶ

高校図書館版

NO. 2　1986年(昭和61年)10月20日

●発行／ライブラリー・アド・サービス

本　社（〒162）東京都新宿区下宮比町15 飯田橋ハイタウン518 TEL 03-235-6168

ぶっく・えんど

〝ぼくの言葉で〟

秋風が快い九月末日、東京・小岩の区民会館で行われた結婚式に出席した。新郎Ｓ君(24歳)、新婦Ｊさん(同)であり、二人の着飾って、緊張した様子に、初々しさが一層感じられた。

学校時代の仲間、恩師、職場の同僚、家族ら百人ほどの祝い客の前に、ひな壇にならんですわっている二人をさして誰れかが「〝七・五・三〟みたいだ」なんていうかけ声も出てしまうくらい可愛い。

Ｓ君とは、四年前『ぼくたちの朝』という本をつくった仲で、私は依頼者、Ｓ君を含む五人の若者たちが書き手だった。この本のカバーのソデにこんなコピーをつけたものだ。

「ぼくの問題は、ぼくが話す。ぼくの言葉で――
なぜ学校に行けなかったのかを。
それにしても、よくもまあ〝拒否児、拒否児〟と、さわいでくれたもんだ。さわいでばかりじゃ、息することもできゃしなかった。泣く母チャン、怒鳴る父チャン、腕を引っぱる先生――困ってしまうぼく。
でも、あの頃のぼくだって、青春が遠のいていってしまう不安や焦りは、やっぱりあったんだ。ウルトラマンを呼びたい時もあったけど、まあ、どうにか自分でやってこれた。やっぱし〝明けない夜〟なんか、ありゃしないのさ――。」

当時、「登校拒否は、病気だ」「学校へ行くべき」という風潮が強く、今もそれは変わっていないなかで、登校拒否の体験記を出版することで、「こんな豊かな感性と優しさをもった子らが行けなくなってしまう学校てどんな所だろう」という気持でつくった本だった。

この本のＳ君以外の著者たち四人も、当日の結婚式に出席していた。集った仲間からこの本を書いた時の思い出話が出てきた。「作文なんて二枚以上書いたことないオレが、百枚も書いたもんネ」「何日も徹夜して……つらかった」「売れたんでしょ、印税もっと下さい」など、など。こんな話の中で、「Ｓ君が、Ｊさんと結婚できたのも、この本のおかげだ」の発言がとび出した。

これは本当の話である。Ｓ君の手記は、Ｊさんが好きで好きでたまらない気持と、何回かの数少ないデイトのこと、そして、失恋の告白をして終っている。しかし、この本が出るやいなや、事態は急変した。二人は恋人に、そしてこの結婚の日と相なったわけ。大げさに言えばこの本がＳ君の人生を変えたのである。

現在、図書館、書店、そして出版社でも〝ヤング・アダルト〟という分野がさかんになっている。児童でもなく一般でもない年代の領域だからこそ、若者自身がつくる(書く)、若者たち主導の分野に発展、充実していけばと願っている。「ぼくたちの問題は、ぼくたちが話す。ぼくたちの言葉で――」の想いを基礎に――。

本を作る側も、彼らとともに（彼らに編集権のいっさいを与えるつもりで……）歩んでいくことが必要だと思っている。小社でもこのシリーズは八冊目を数えている。

（橋田常俊：教育資料出版会代表）

レファレンス事例集をつくって

真田敦子

図書館には、国会・県立・市立といった大規模のものから、学校図書館といった小規模なものに至るまで様々なものがある。図書館を利用する人達の多くは、知りたいこと、調べたいことがあってやってくるわけだが、膨大な資料の中から、自分の求めることがどの本に書かれているのか、どう調べればいいのかわからない。そんな時には、図書館の係の人に気軽に相談して手助が得られればよいと思うであろう。一方図書館の係の方でも、利用者の相談に応じるためには、自館の資料に精通していなければならない。

富山地区司書部会では、61年3月「読書相談—レファレンス実例集」を発刊した。北信越大会の研究テーマが「レファレンスと学校司書」であったので、富山地区の60年度の研究テーマも、北信越大会の事前の研修も兼ねる意味から「魅力ある学校図書館づくり—レファレンスと学校司書」をテーマとして研究してきた。会を重ねるうちに、何か形あるものを作っていこうということになり、この「読書相談—レファレンス実例集」をまとめることになった。本としてまとめるといっても、印刷から製本まで全て会員の手作りによるものである。ささやかなものだが、各学校の図書購入の資料としても役立っている。それは個々のレファレンス事例の中に、自校図書館にないけれども、利用者（主として生徒）の要求する本を、事前に捉えることができるからである。

この実例集について指導を仰ぐつもりで、全国学校図書館協議会に送ったところ、その内容が学校図書館速報版（6／15）に紹介され「是非見たいから送ってほしい」との佐賀県の高校の司書の方からの電話があり、驚いたものである。その後、二十数校からの依頼があり反響の大きさに、部員一同「もっと丁寧に書くんだった」と反省している。実例集をお送りした学校図書館関係者の人達からNo.2への期待、励まし、そしてアドバイスを戴き、その言葉の中に、会員一同が勉強させて戴くことが多かった。また県立・市立図書館からも、学校と異ったレファレンスに関する資料をいただき、進んだ取り組みがなされていることを知り、更に研修せねばと思っている。

ここで実例集の内容と反省について少し述べてみたい。レファレンスとはもとより、「図書館を利用する人達がなげかける質問に対し、質問者と、資料を結びつけ、あるいは外部の施設の持つ資料から捜しだし提供する」ことである。どうすれば相手の求める資料をスピーディに見つけ出すことができるかが大きな課題である。今回はともかく各校で行ったレファレンスの内容をまず記録しておこうということで、事例を用紙に記録していくことにした。各校独自の記録用紙作りから始め、記入し、記入し忘れたものについては、思い出して記録し集めた。用紙の書き方も次のように指定した。

≪質問事項≫　単なる提供資料の記録だけでなく、生徒がどのような言葉で語り、それに対して司書がどのように対応してたかを、出来るだけ記録する。これは司書が、生徒からなげかけられる質問自体をつかめず、生徒との会話の中から生徒の要求をひき出すことが多いので、そんな時の対応の仕方を参考という意味もあった。また生徒が、どのような考えを持ち、どんな資料を図書館に求めているかを知るためでもある。生徒の反応がもう少し書かれていればなお楽しいとのアドバイスもあり、これからはその点も盛り込んでいきたい。

≪回答事項≫　資料のあった場所、資料名、出版社名、回答後の感想、反省点など記録する。ただ捜しても質問事項がでていなかった資料名も記入しておけば、再度捜す手間が省けてよかったと思う。また資料のあった図書館名も記入しておけば、相互利用も可能となるはずだった。

この本の編集にあたっては、105の事例を記録用紙そのままの形で教科別、その他に読書、人物、その他、郷土など12の項目に分けて載せた。見やすさに楽しさが見られると好評であった。

内容的にはまだまだと思う、この実例集だが、速報版に載せていただいたということだけで、方々からお尋ねがあり、100部作ったものも残り少なくなっている。次にはもっとよいものを作ろうと話合っているところである。

（富山県立富山中部高等学校司書）

図書の選択に関するノート

図書選択

貸出しのための図書選択は、利用者の要求に合った図書を、具体的な要求がリクエストの形で出る前に選択しておくことである。図書館が、読書とはかくあるべきだという規範をもち、これに合ったものだけを選択するのではない。図書館がいくら良い本だといって購入しても、一度も利用されないのであれば意味がない。図書館の図書選択はあくまで、市民の図書費を図書館があずかり、市民のために図書を選ぶのであることを忘れないようにしよう。市民の読書水準は図書館が考えているほど低くはない。多くの市民は、図書館に行ってもほしい本はないと思ってあきらめている。特に専門的な図書については市立図書館はまだ信頼されていない。図書館はこのような市民の要求を正確に知って、選択しなければならない。

市民の要求は利用に現われるから、利用傾向を見ることが要求把握の第一歩である。しかし、市民の要求と利用傾向とは一直線に結ばれていない。図書館の蔵書、つまり図書選択が利用傾向を規制し、さらに要求そのものに影響を与える。例えば天文学の図書が数冊しかない図書館では、天文学の図書を読みたい市民はあきらめてしまう。古いファッションの編物の本しかない図書館には、編物の本の利用はでてこない。もし会計の図書が十分にあれば会計の利用はふえ、もし音楽の図書が十分にあればその利用が多くなり、さらにはっきり音楽の図書に対する要求をもっていなかった人人にも読んでみる気を起させるのである。文学書でも、われわれは誰でも図書館の書架の片隅で見つけた無名の作品、今まで知らなかった作品にであい、それが忘れられない本となった経験があるだろう。必読書だ、名作だと言って読ませるより、読者と図書との邂逅をこそ大切にしたい。

図書館員の行なう図書選択は、このように利用者に刺激を与え、利用者が図書を選びやすくするのである。図書選択と利用者の要求は、このように有機的相互作用によって結ばれ、利用者の役に立つ蔵書が築かれてゆく。そうして、このような相互作用は、図書選択が市民の要求に合っている時に起ることであって、図書館員の独善では利用者の足はますます遠のくばかりである。(後略)

(『市民の図書館』日本図書館協会　1970)

選書の責任

児童図書館の選書は、どこの公共図書館の奉仕でも児童担当の司書の責任でなければならない。ある所では、児童用の図書が児童担当司書でなく、館長あるいは受入部門（あるいは、いうのもおかしいが、図書館局の委員）あるいは、始終子どもたちといっしょに働いていない人たちによって選ばれる。これは、全然まちがっている。いつも子どもと接していて、子どもに特に興味を持っている職員を除いては、だれも、子どもたちが何を利用し、何を楽しみ、何が奉仕の根本目的を促進するかを、賢明に決めることはできない。もし、児童担当司書が、蔵書を選ぶ能力があると思われないような人なら、その人はその地位にいてはならない人なのである。

魅力ある蔵書の維持　児童図書館の蔵書は、常に形態上も良好な状態にしておかねばならない。われわれは子どもに本はたいせつにし、正しく扱わなくてはならないことを、そして、公共の物—公共の福祉に向けられたすべての物—は正しく扱わねばならないことを教えなければならない。正しい状態に維持されていない蔵書はまちがった利用方法を助長し、本をたいせつにしない原因をつくる。図書や建物やその他たいていの物が受ける取扱いと、それらが受けることが当然であるように見える取扱いとの間には密接な関係がある。子どもは新しいか、きれいな図書には注意を払うが、きたないものは大事にしない。

(『児童のための図書館奉仕』L.R. マッコルビン

倉沢・北村共訳　日本図書館協会　1973）

選択者と選択論

最後に選択について、私の考えをまとめてみますと、選択論はいろいろあるわけですが、選択論の違いを生んでいるのは、その論者夫々が読書についてどう考えているかということと、図書館について夫々どう考えているかということの、考え方の差とそれらの組合せではないかと私は思っています。もっと具体的に言うと、論者夫々が一体どういう本をどれくらい読んでいるのかということと、図書館は誰のために、何をする所かと考えているのか、この二つの面の組合わさって、いろいろな選択論が出てくるのではないかと思うのです。

中には、ほとんどこういう分野の本は読んでいないのではないかと思われる方が、そういう分野についての選択論を書いている場合もあります。もし本当に読んでいれば、そうは書けないのではないかと思うわけです。

それから図書館の機能について言えば、図書館はこういうものだと観念的に決めてかかって、利用者とは関係なく、それを自分なりに実現しようとしている人の選択論もあると思います。

ですから本を選択する人間の条件としまして私があげたいことは、まず第一に本を読んでいるということ、それも知的好奇心が旺盛であって、単に自分が好きだとか自分が大学で勉強したとか、そういう分野だけではなくて、何か新刊書が並びますと、どれもこれも手を出したくなるような、これも読みたい、これも読みたい、早く読みたい、そういう気持になる人。全部読めないにしろ、その人その人なりに一所懸命本を読んでいる人。これが第一の条件だと思います。

それから第二の条件は、利用者に接している人です。具体的に言いますと、カウンターに立っている人、移動図書館で利用者に本を貸している人、そういう人が選択しないといけないと私は思っています。

そして本を読んでいますと、本に対して謙虚になります。本に対して生意気が言えなくなります。こんなものはだめだとか、こんな考え方はおかしいと言いにくい人間になってしまいます。また利用者に接していますと、利用者を馬鹿にすることはできなくなります。自分よりずっと学問も高い教養のある利用者が多いですから、そういう人に接する、また夫々一所懸命図書館に本を求める人達を見ていますと、そういう人達に対して生意気な態度はとれなくなります。

（『図書館で何をすべきか―若い図書館員のために』前川恒雄　図書館問題研究会大阪支部　1983）

図書選択の原則

司書は、毎日数多くのさまざまな仕事にたずさわっている。司書は毎朝開館すると、急いで昨日の諸統計をまとめ、机上を整理し、その日の仕事に備える。さらに図書を書架に返す作業が始まるようにとり計い、スリップをファイルし、カードを選り分ける。そしてその新しい日のみずみずしい感激を胸に、最初の利用者にあいさつする。

普通、毎日の図書館業務をみたとき、いまなされている仕事の中でどれがもっとも重要なものであるかを問うてみるのも当然のことである。それは本にスタンプを押すことであろうか、レファレンスの質問に答えることであろうか。それともこみいった図書館のカード目録の見方を利用者に説明することか、あるいは業者から図書をうけ入れ、送り状や註文書にチェックすることであろうか。また図書の目録をとることや、カードやブックポケットを準備することであろうか。

実際、司書の基本的な仕事はきわめて目立たない性格のもので、観察者は見落すか、あるいはその仕事が行なわれているのを見ていても、司書がやっていることについて間違った解釈を下すほどである。課長は Publishers Weekly を手に静かに机に向っており、貸出し係は Virginia Kirkus' Bulletin のページを繰っている。館長は Library Journal の批評欄に目を通している。すなわちこれらの仕事は、派手ではないが、司書のもっとも重要な仕事をあらわしている。そして司書は、自分の図書館にとってもっとも大事なことは図書の選択だと思っている。

結局、どんな図書館でも肝心の仕事は人々に図書を供給することであって、個々の利用者が価値があり有益だと思う本を提供することである。読者が図書館へ来て、どの程度満足するかは、直接、司書が読者の利用できる本を供給できるかどうかにかかっている。もし彼が、読者にとって興味もなく、利用価値もない本をたえず選択しているようなら、その司書は、読書に自分の図書館で満足

を与えることはできない。

もっとも、“自分の図書館にとって最善の本”という言葉に対する解釈は、その司書が図書館をどんな目的に奉仕するものと見ているかによって変わってくる。その司書が図書館の目的にそわないと信じている本を、利用者がもとめて得られないところから不満を表明するとしても、司書はそれを当然だと考えるかもしれない。司書同士も、同じ本の評価について、相矛盾する判断に達するかもしれない。しかしこういう対立意見も、2人の司書が、図書館の目的というものについて見解を異にしているということから理解できる。しかも個々の司書は、図書館ごとにそのねらいを異にすることになる。ここで図書選択の原則を有意義に展開できるよう、まずもって、これらの原則がよってもって立つ図書館の果たす目的機能を考え、しかも司書自体、これらの目的をいかに解釈しているかを検討する必要がある。

図書館利用者のため的確な本を選べ

第1に起こる問題は、だれが図書館利用者であるかということ、図書館は現に図書利用に来館している人だけが奉仕対象であろうか。それともいつかは利用に来るかもしれない人々のために図書を準備すべきであろうか。見方をかえると司書は目下の利用者のためにだけ図書を選択すべきか、それともまた潜在的利用者のために選択すべきかということである。

自由な公共図書館というものの基本原則の一つは、図書館がすべての人に公開されているということである。この声明はつぎのような意味合いをもっている。すなわちその地域社会の全員が、たとえ現在は来館していないとしても、図書館利用を歓迎すべきであって、そのため司書はその地域社会の全員に図書選択の責任を負っているのである。司書の中には、この理想が図書選択方針決定上まもらるべき核心であると考えている人がある。このような立場の司書は、図書館利用者のための的確な図書というこの第一原理をいま図書館にやってくる人々にだけ奉仕することだとは解していない。むしろつぎのように解している。すなわち、図書収集にあたって、この地域社会の幅広い潜在的な利用の多種多様な興味を反映させるという責任がこの原則によって課せられているものとみる。

書評と注釈

司書はすべて、書評に熟達しておくことが望ましい。とにかく図書は司書の仕事の生命である。グループや個人から求めがあれば何度でも本のことについて話さなければならない。図書について語ったり、書いたりできる能力は、すぐれた司書に欠くことのできない属性である。ほんとうに本に興味をほかの人とも分ち合いたいと思う人は、だれでも注釈や書評の技術をそなえていなければならない。

図書館にそなえるべき図書の選択という目的で書評にあたる場合、その判定者 (evaluator) は、本のカバー (book jacket)、目次、序文から得られるインホーメーションをもとにその本の総括的な印象をつかまなければならない。出版者の自己宣伝的な広告 (blurb) はともかくとして、通常本のカバーをみるとその著者についてのインホーメーションが得られる。もちろんこのインホーメーションは他の資料によって補いうるものである。またこの本のカバーから、その本の概要を知ることができる。目次からはその本の記述プランが理解される。さらに序文をみることによって、著者がこの本で何を言おうとしているかがうかがえる。

2、3章 (100ページそこそこ) を読み、残りを走り読み (scanning) すれば、それでその本の種類、扱っている範囲、内容、形体、構造、その主題のとりあげ方などを確定できる。つぎに司書の目的はその本の要旨 (gist) をつかむことである。これを行なうためには、その本の主眼点を速に、包括的に、しかも正確にまとめあげる能力を養わねばならない。しかもその本はやがて図書館で利用される本だということが念頭になければならない。司書はその本を所属分類の中に位置づけ、つぎにこの本とその同じ部門に属する他の本とを比較しなければならない。これはこの本が、当館のもつ現在の蔵書構成からみて収書の要ありや、ないし収書の価値ありやを決定するためである。さてここで、その図書購入の可否勧告という段どりになる。手続きとしては、普通その決定理由を記した文書体の注釈、ないし注記の形をとる。もちろん、一冊の本の書評に要する時間は、本ごとにまちまちであって一概にはいえない。(『蔵書の構成』カーター, ボンク共著　小野泰博訳　ＪＬＡ　1964)

図書の購入

私は、図書購入の成功を左右するとも思われます三点から話を始めましょう。

第1は、あなたの地域社会の要求が至上のもの

であるということです。そしてもし地域社会の要求がないとするならば、あなたの館の現実の読者の要求が、あなたの選択に大きな影響を与えるものであります。

第２は、選択は一人一人のものではなく、全幹部職員による計画的組織的なしごとでなければなりません。

第３は、図書の購入は、日々の普通事務であって、旅行者の一時的な要求によってするしごとでもなければ、書店に立寄ったので買ってきたとか、あるいはまた読書評を見て買うというものでもありません。

結局、あなたのことについて申上げますならば、もしできるならば、図書の選定に当っては客観性を持たなければなりません。偏見には二つの傾向があります。ひとつは、ある種類の図書をひどく好むということであり、もう一つは、図書、著者、さらに発行所などの特別な社会層に対する喰わず嫌いであります。あなたはこうした自分の偏愛に気がつき、矯正することができますが、喰わず嫌いは、そのことを認めない以上、なお困難なものであります。自分自身が明朗闊達になり、またその喰わず嫌いを取除こうとするときには、なぜとり除くのかをよく確かめてから正当な理由によってとり除き、決して個人的なものからなすべきではありません。

（『図書館の管理―若き館長への手紙』 F.M.ガードナー　渡辺正亥訳　池上書店　昭58）

DMかたろぐ

古典文学の世界をこの一冊に凝縮……
12月2日発売！
〈監修〉市古貞次・野間光辰
日本古典文学大辞典
簡約版
菊判・上製本麻クロス装・函入・二四〇頁　定価九八〇〇円
刊行記念 特別定価 九〇〇〇円
〔'87年4月30日 特価提供期限〕
岩波書店
東京都千代田区一ツ橋二-五-五
振替番号〈東京〉六-二六二四〇

地球上から姿を消した全"絶滅動物"が
世界で初めて、オールカラーで登場！
地球絶滅動物記
今泉吉典（国立科学博物館名誉館員）／監修
今泉忠明（日本哺乳動物学会会員）／著
地球上から絶滅した動物を、世界で初めてオールカラーで復元した、見て楽しめる大図鑑。図版ごとに明解な解説がつき、地球の歴史がだれにでもよくわかる。
A4判●256頁（カラー192頁、モノクロ64頁）
豪華上製本●丸背●左開き●ジャケットがけ　定価8,800円
〒102 東京都千代田区飯田橋2-7-3　竹書房　電話東京03 264―1576

高校生が読んでるビギナーズシリーズ!!
〔見る思想書〕
（各950円 既刊40点）
戸籍　冤罪・狭山事件　家族　フロイト
吉田松陰　近代女性史　三島由紀夫　レーニン
日本の仏教　自然食　イスラム教　資本主義
全学連　民法　差別　エコロジー
憲法　日本の警察　チャップリン　ダーウィン
マイコン　エントロピー　柳田国男　資本論
天皇制　インスタントアート　マルクス　七大経済学
生命操作　大杉栄　反原発　食糧
般若心経　アナキズム　毛沢東　フランス革命
教科書　吉本隆明　トロツキー　アインシュタイン
現代書館
東京都三崎町2-2-12　電話03(261)0778 FAX03(262)5906 振替 東京2-83725

高校図書館に贈る話題の必携書
日本文学大年表
市古貞次編　上代から昭和60年12月末までを収めた最新版。判型、活字を大きくし、読む年表として工夫。作者生没年・作品成立年を示す便利な索引つき。
B5判・510頁・予19000円
現代名歌鑑賞事典
岩城之徳・本林勝夫編　中・高の教科書に収録された短歌を含む122名556首を鑑賞。巻末に作家解題、参考文献をつけ、実作・鑑賞指導にも好適。
四六判・予376頁・予2800円
桜楓社
〒101 東京都千代田区猿楽町2-8-13・電話 03(295)8771代

伝承デザイン資料集成　商家諸職編　全4巻

日本のしるし

高橋正人著　定価各四、三〇〇円

商家お大尽が愛用した身のまわりの品々や商売道具、看板、商標、蔵、瓦、のれん、船などに使われた、造形的にすぐれた伝承デザインを集大成し、精細な考証的解説を付す。

■体裁　総図版一三〇〇余枚　菊倍判

1 家のしるし
2 諸業種家しるし
3 商品・業種家しるし
4 火消・船・講・まじないのしるし

朝日新聞評
読売新聞評
十年がかりで採集し整理した成果
造形的にすぐれ欧化の影響のないしるしを分類し記録

武家のしるし　全1巻　高橋正人著　一八、〇〇〇円

岩崎美術社　東京文京本駒込3-39　電話03(824)1731

シリーズ

日常術

暮らしのなかで
大きな夢を育てる



❶群ようこ〔編物〕術
毛糸に恋した
❷平野甲賀〔装丁〕術
好きな本のかたち
❸吉本由美〔一人暮し〕術
ネコはいいなア
❹室謙二〔ワープロ〕術
キーボード文章読本

晶文社　東京都千代田区外神田2-1-12　電話(255)4501

日本の文学

新刊セット10巻　既30巻好評発売中

●原作を全文収録。
●他に見られない現代人気作家の作品群



31 ムツゴロウの青春記　畑 正憲
32 お助け・二丁目が戦争です　筒井康隆
33 足摺岬・絵本　田宮虎彦
34 しろばんば(上)　井上 靖
35 しろばんば(下)　井上 靖
36 ペンネンネンネン・ネネムの伝記　宮沢賢治
37 真実一路(上)　山本有三
38 真実一路(下)　山本有三
39 船乗りクプクプの冒険　北 杜夫
40 友よ・夏の花・原爆詩　峠 三吉ほか

小学校高学年～中学生向　四六判
シリーズ全40巻　定価各680円

東京都台東区小島1-4-3　金の星社　〒111　☎03-861-1861

「数学マイウェイ」編集委員会編

数学マイウェイ

数学Ⅰ

全8巻
定価各1400円

1. 飛べ　文字の翼で　―数と文字式―
2. 関数はBlack Box　―2次関数(上)―
3. ボールの軌跡　―2次関数(下)―
4. 式が描くかたち　―図形と方程式―
5. ベクトルの威力　―図形と方程式Ⅱ―
6. ピラミッドの高さ　―三角比―
7. xの謎を追え　―方程式と不等式―
8. 数学Ⅰの展望台　―複素数・幾何・論理―

複刻 種蒔く人

全24冊(付録13種)

●編集／日本近代文学研究所　定価48,000円

ほるぷ出版　〒160東京都新宿区新宿2-19-13☎(354)7031

フィールド図鑑

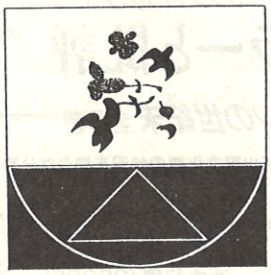
第2期全6巻

海岸動物　益田一 ほか　2500円
コケ　井上浩解説 写真　12月刊　2000円
高山植物　奥田重俊解説　木原浩 写真
ハチ類　坂上昭一・石川良輔解説
淡水魚　川那部浩哉 監修
貝類　奥谷喬司解説　楚山勇 写真

黒帯にかけた青春

山下泰裕著　〝強い山下〟〝弱い山下〟のすべて　山下泰裕・初の書き下ろし。

定価1200円



—全7巻完結！—

図説 われらの太陽系

桜井邦朋監修

A4判 各巻定価3800円
全7巻 揃定価26600円

1 総論・外部太陽系
2 太陽のすべて
3 水星のすべて
4 金星・地球・火星
5 月のすべて
6 小惑星・木星のすべて
7 土星のすべて

鮮明な写真
詳しいデータ・ハンドブック
太陽系のオールカラー決定版

朝倉書店

東京都新宿区新小川町6-29
〒162 ☎ 03-260-0141

既刊300点！—辞典づくり40余年—

定評ある東京堂の辞典シリーズ

●おすすめしたい秋の新刊

高木重朗・二川滋夫編 A5判・378頁・2500円
コインマジック事典

三浦一郎編 B6判・246頁・1900円
西洋人物こばなし辞典

近藤 弘著 B6判・424頁・2200円
日本うまいもの辞典

宮家 準編 A5判・530頁6800円
修験道辞典

東京堂出版
〒101 東京都千代田区神田錦町3-7
☎ 03 (233) 3741 内容見本進呈

10月発売

19世紀の壮大なロマンと豊かな詩情がよみがえる

アンデルセン小説・紀行文学全集
鈴木徹郎 訳
第二回配本 定価二、八〇〇円
全10巻
⑥ 一詩人のバザール（紀行）

朝倉治彦 監修
日本随筆辞典
B5判・上製本・本文三五二頁 定価九、八〇〇円
江戸期を中心として歴史・民俗・国文・風俗などの諸分野・各地方の随筆を集大成した解題辞典の決定版！

東京書籍 〒113 東京都文京区本駒込6-14-9 TEL 03-942-4111

民間日本学者シリーズ

編集＝鶴見俊輔・中山茂・松本健一／ヨーロッパ科学の伝統を相対化し、あるいはそれから離れて独立の学問を築き、専門化しすぎない、博物学の雄大なスケールを持ち、ユニークな生き方をした日本研究ノン・アカデミストの評伝を、簡潔に学問紹介を含めて描く画期的シリーズ。

●第1回配本＝11月5日・2冊同時発売
小泉八雲（高木大幹著）定価1400円
石井研堂（山下恒夫著）定価1400円

リブロポート
東京都豊島区南池袋1-16-22☎03-983-6191

—クラテール叢書—

肉体と死と悪魔
ロマンティック・アゴニー
マリオ・プラーツ
倉智恒夫他訳
4800円

カバラーと批評
ハロルド・ブルーム
島 弘之訳
2000円

—ドイツの世紀末 全5巻—

世紀転換期ドイツ語文化圏の状況を様々な分野のテキストで再現

1. **ウィーン** 聖なる春
池内紀編／3600円
ハプスブルグの多言語都市にあって成熟から爛熟へ向かいつつあった有機的精神空間の香気と多彩な局面を立体的に構成。

2. プラハ
3. ミュンヘン
4. ベルリン
5. チューリヒ

国書刊行会 〒170 東京都豊島区巣鴨3-5-18 PHONE 03(917)8287

築地書館が高校図書館のために選んだ動物・植物の本11冊。

虫の民俗誌	梅谷献二	四六判	1800円
虫の博物誌	梅谷献二	四六判	1500円
昆虫放談	小山内龍	四六判	1400円
甲虫の生活	林長閑	四六判	1800円
カモシカ騒動記	伊東祐朔	四六判	1200円
ニホンカモシカの生活	羽田健三監修	四六判	1200円
野鳥の生活	羽田健三監修	四六判	980円
続野鳥の生活	羽田健三監修	四六判	980円
続々野鳥の生活	羽田健三監修	四六判	1200円
きのこの自然誌	小川真	四六判	1800円
マツタケの話	小川真	四六判	1300円

築地書館 〒104 東京都中央区築地2－10－12
☎03-542-3731 振替東京1-19057 〒300円